

・課題を理解し、考え、お金を出し、合っているかどうか関係図表を使って自分から確認する場面が何度もあった。合っていると確認できると、得意そうな表情で喜びを伝えた。

・「十」「円」を覚えて、使えるようになった。
・課題を理解し、考え、お金を出し、合っているかどうか関係図表を使って自分から確認する場面が何度もあった。合っていると確認できると、得意そうな表情で喜びを伝えた。

・実物の硬貨となじみのある品物を使ったことで、興味が高まり、意欲的に買いたい物を選んだり、同じ額の硬貨を出したりすることができた。

・通常の名称が使われている品物を利用したため、パッケージの中から片仮名を探しあてて読んでいた。児童が見やすく理解できる値段をつけ、繰り返し学習をしたため、硬貨を正しく出すことができるようになった。手話で、「百」

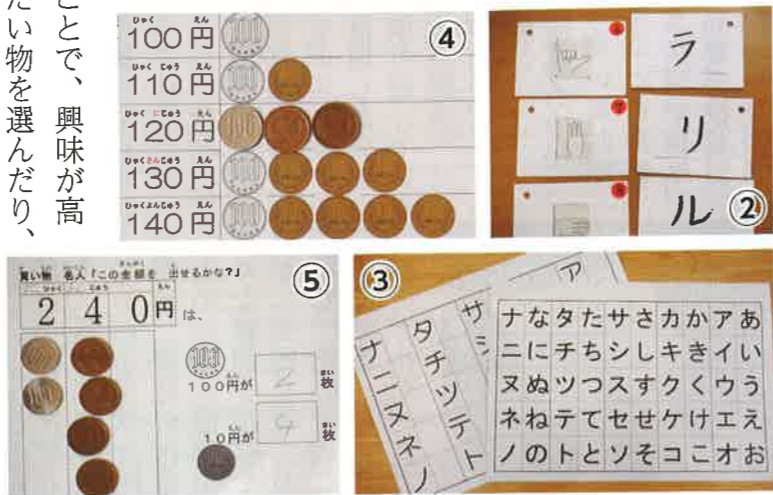
「十」「円」を覚えて、使えるようになった。

課題を理解し、考え、お金を出し、合っているかどうか関係図表を使って自分から確認する場面が何度もあった。合っていると確認できると、得意そうな表情で喜びを伝えた。

実物の硬貨となじみのある品物を使ったことで、興味が高まり、意欲的に買いたい物を選んだり、同じ額の硬貨を出したりすることができた。

通常の名称が使われている品物を利用したため、パッケージの中から片仮名を探しあてて読んでいた。児童が見やすく理解できる値段をつけ、繰り返し学習をしたため、硬貨を正しく出すことができるようになった。

課題を理解し、考え、お金を出し、合っているかどうか関係図表を使って自分から確認する場面が何度もあった。合っていると確認できると、得意そうな表情で喜びを伝えた。



学んだことと生活が結びつく授業を目指して



県立楯岡特別支援学校大江校
教諭 安藤 妙子

一 はじめに

今年度の異動で、現在は西村山地区に新設された知的障がいのある学校に勤務している。私にとって初めての学部で初めて受け持つ教科・領域の指導が多く、日々試行錯誤を繰り返しながら授業している。

前任校は、聴覚に障がいのある子供たちが学ぶ聾学校であった。私が担任していた小学部重複障がい学級の児童は、聞こえにくさに加えて他の障がいもあり、言語面では生活言語の拡充を目標に学習を進めていた。年齢が低ければ低いほど、獲得される言葉は生活と密接にしている。私は、言葉や知識を児童が効率よく獲得できるようにするために、教科・領域をどのように関係づけ、計画や学習内容をどうすればいいのか、悩みながら授業をしていた。生活に密接に関係した学習で得た言葉や知識を自在に使うことができれば、より充実した生活を送ることができると思うからである。

本稿では、昨年度担任した小学部重複障がい学級一年生の、国語・算数の実践を中心に報告する。

二 国語・算数「買い物を楽しもう」の実践
お金や片仮名の学習に入る時点で、国語・算数での児童Aは以下のような様子だった。

学習態度面では、興味のあることには意欲的に学習に取り組むものの気が散りやすく、書き直しや間違いを指摘されると怒り出したり意欲をなくしたりしていた。

また、平仮名は指文字と一致させ概ね書くことができたが、片仮名の読み書きは全くできなかった。お金を使った経験は多少あり、「買うときに使うもの」ということは理解していたが、その種類や大小などは分からなかった。

(一) 教材・教具や使い方

児童の実態を受けて、「分かる」「できる」と実感し楽しく学習ができるように、次のような教材を使い、授業を進めた。日常生活の中で活用できるように、実物の硬貨と品物を使った。硬貨は、比較的なじみのある十円玉と百円玉の二種類とした(①)。

品物には読みやすい片仮名の表記があり、Aが好きな物や以前買ったことがある物を混ぜて提示した(①)。品物の名称が読めないときは、自立活動でも使っているもので、表に指文字、裏に片仮名や平仮名が書いてあるフラッシュカード(②)やマッチングボード(③)で確認できるようにした。また、読み



(三) 自立活動や生活単元学習とのつながり

自立活動では、生活で使う言葉を増やすことを目標の一つとしていた。指文字と文字、手話の三つをセットにし、必要に応じて絵も加え、言葉と意味が常に結びつくように配慮しながら学習を進めた。その土台があったので、国語での片仮名の学習にもスムーズにのれ、片仮名での名称をたくさん覚え、掲示物や絵本から片仮名を拾い読みするようになった。生活単元学習の校外学習では、算数で使った金額と硬貨の関係図表で、バス代や食事代、お土産代を確認し、自信をもってお金を支払うことができた。この学習を始める前は、おつりの意味が分からず、おつりをもらって不思議な顔をしていたが、この学習を終えたあとではおつりをもらうことが分かり、レシートと一緒に「おつり。」と指文字をして指導者に渡すことができるようになった。お金を使う楽しさを存分に味わったと言える。

三 おわりに

特別支援教育の面白さ、やりがいがある理由の一つとして、子供の実態や特性に応じて学習内容を選定したり、個々にあった教材や指導方法を考え実践や見直しを繰り返したりすることがあげられると思う。子供の行動や表情を思い浮かべながら授業を考え、多くのやりとりをしながら授業を重ねた結果、子供が学習したことを身につけ自由自在に使えるようになる様子を見ることは、何よりも嬉しい。

現任教でも、生徒の今の生活や将来を見据え、生徒が自分ものとして使いこなせる知識と学び続ける態度を身につけられる授業とはなにかを常に考え、実践をしていきたい。